

すいかずら

平成 21 年 3 月 31 日発行

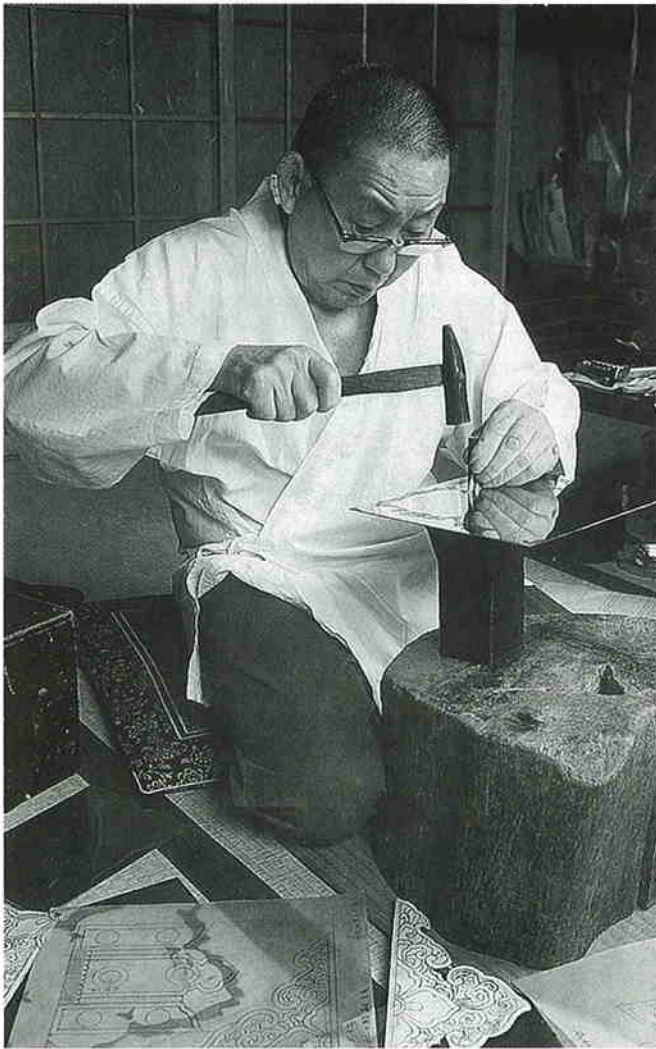
編集 社寺建造物美術協議会

発行人 澤野道玄

〒604-8232 京都市中京区錦小路通
油小路東入る空也町491
(株)さわの道玄 内

TEL (075)254-3885 FAX (075)254-3886

まが
『**紛いもんはあかんで！
ほんまもんの仕事やないと
あかん！**』



国選定保存技術保持者

森本安之助さん ご逝去

銚職の第一人者であり、当協議会前副会長・顧問である森本安之助様が去る3月23日に急逝されました。森本様は日頃より当協議会活動の中心となつてご尽力いただきました。伝統技術の現状を憂いながら常に舌鋒鋭く警鐘を鳴らされていたお姿や言葉は、私達の脳裏に深く刻まれております。

現在、森本大隆様が事業を引き継がれ、当協議会の副会長として諸事業に参画していただいております。ここに森本安之助様の御功績をたたえ、衷心より哀悼の意を表します。享年81歳。

略歴

- 昭和3年(1928) 京都に生まれる
- 昭和23年(1948) 京都工業専門学校(現京都工芸繊維大学)建築科卒業
- 二代森本安之助のもとで銚職に就く
- 昭和44年(1969) 三代森本安之助襲名 株式会社森本銚金具製作所代表取締役就任
- 昭和61年(1986) 文部大臣より地域文化功勞者として表彰される
- 昭和63年(1988) 京都府知事より京都府伝統産業優秀技術者として表彰される
- 平成3年(1991) 財団法人京都府文化財保護基金功勞賞受賞
- 平成5年(1993) 黄綬褒章受賞
- 平成6年(1994) 日本建築学会文化賞受賞
- 平成9年(1997) 第17回伝統文化ポラ賞受賞
- 平成10年(1998) 選定保存技術保持者の認定を受く
- 平成13年(2001) 勲五等瑞宝章受賞
- 平成15年(2003) 取締役会長に就任

丹塗展示

- 丹塗模型見本
- 丹塗の歴史・丹塗施工について(パネル)
- 施工写真パネル(八坂神社樓門等)
- 塗装材料と塗装見本(6色)

ふるさと文化財の森

『文化財建造物保存活用公開セミナー』

社寺建造物美術協議会報告書

- ◇日時 平成20年11月1日(土)～11月2日(日)
- ◇会場 京都市文化財建造物保存技術センター
- ◇概要 広く一般の方々を対象に、伝統的な建造物の装飾(丹塗、漆塗、彩色)の仕事を紹介させていただいた。彩色、漆塗ではそれぞれ体験コーナーを設けて、講師とも会話をしながら、普段触れることのない素材やモチーフに触れ、文化財建造物装飾の仕事の一端を感じていただいた。

丹塗の展示ブースでは、普段市中で目にする神社仏閣の建物の塗装に、伝統的材料が使用されていることに驚かれる方が多かった。一見、同じ色に見える丹色も建物によって、朱色もしくは弁柄色の混和による独自の色合いにより塗装されている。「いつも

建造物の一角を切り取ったイメージで実際に塗り上げた模型を展示。丹と胡粉の白のコントラストを見ていただく。

見ている神社やお寺もこれからは違う目で見ることができると話しながら見学された方がいた。以外に身近なところで、伝統が活用されていることを感じられた。



固有技術研修会

日 時 平成20年10月20日～25日
開催場所 京都市文化財建造物保存技術研修センター
内 容

実際の絵馬を前にし、現存している彩色塗膜を目視での判断や赤外線調査、光学調査などから絵馬の復元図を作成する。建造物彩色調査作業を行い調査の基本を実習。



京都府京田辺市にある棚倉孫神社さんから「騎馬図」(長沢廬鳳筆・江戸時代)と「楓狩図」(作者不明・文政4年「1821」)の2枚の絵馬をお借りしました。これらの絵馬は、経年により顔料の剥落や風蝕が進行しており、目視では図様を解読しにくい部



分が多く含まれています。材料や道具の扱い方から、線描や顔料が不明な箇所の復元方法までを学ぶ濃い内容の研修会となりました。



第20回

通常総会報告

昨年11月10日、沖繩県青年会館で8会員が集まり通常総会を開催しました。総会に先立ち、全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長であり当協議会相談役である後藤佐雅夫先生に「沖繩の伝統建築について」のご高話をいただきました。

総会では4項目の議事がおこなわれ、平成20年度事業中間報告や、平成21年度事業計画案への要望や意見が出され検討されました。また2社の入会希望がありました。審議の結果会則第4章10条の規定により否決となりました。

し合いがおこなわれました。いまだ成果を得るには至りませんが、このような機会を何度も経験することにより、いずれ本会の目的が明確になるのではないのでしょうか。

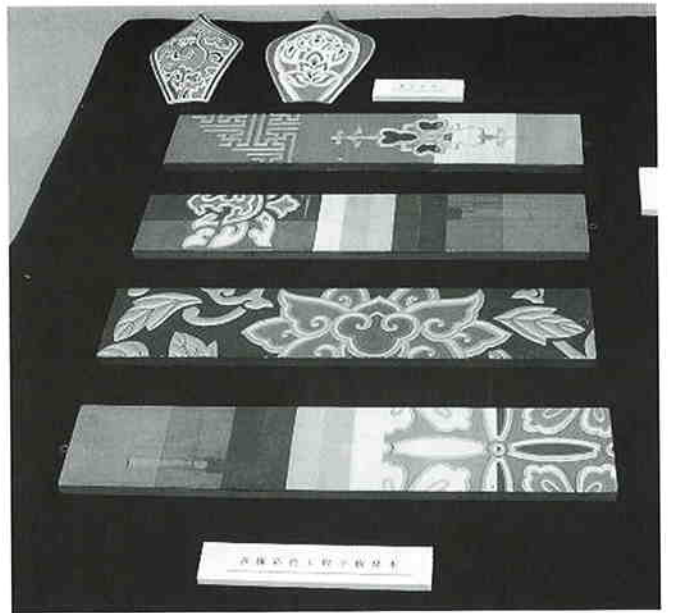


彩色展示

- 繚綯彩色斗拱実物見本
- 繚綯彩色・彩色の時代的変遷について(パネル)
- 材料について【顔料・胡粉・膠】
- 彩色各種技法の見本8種
- 蓮弁木地に彩色見本2種



「繚綯彩色」とは同系色の色彩の濃淡を量し(ぼかし)を問わずに段階的に区切りながら塗る彩色技法で、平塗りでありながら立体的効果を生み出す工夫である。実際の彩色現場では斗や肘木はもろいこと、描かれている唐草や牡丹の花、鳥の羽根や龍の鱗までもが繚綯彩色の手法で表現されている。繚綯彩色なくしては社寺における建造物彩色は成立しえないともいえる。



8種の彩色技法見本と2種の蓮弁木地彩色見本を並べることにより、彩色技法の幅のあるパリエーションを見せることが出来た。絵具を盛上げる「置き上げ彩色」、金箔を併用した「生彩色」などの技法見本が製作工程の順序に基づいて説明できた。彩色に使用される日本画絵具の色数は基本の数色に限られているが、その表現技法で多様性を出すことに

より、建造物に於ける豪華さと宗教空間としての非日常性を演出し構築するための大いなるツールとしての先人の工夫を開示することができた。煌びやかな表面装飾の下に、漆を用いた堅牢な下地作りを行って、紙張りによる補強を経て、ようやく極彩色がおこなえる。その緻密な作業手間に見学に来られた方も驚いていました。

漆 展 示

- 漆液・漆が乾くとは（パネル）
- 漆塗装工程解説24工程（パネル）
- 施工実績写真6物件（パネル）
- 漆工程見本3種
- 材料と道具一式
- 漆塗装見本4種

文化財の塗裝修復には漆による塗りが欠かせない。「漆」の言葉は広く

知られていても、実際の漆材料と各種の塗装仕上げはほとんど知られていないのが現状であると思

われる。建造物に漆塗りをおこなう場合、一般的には現在の油性塗料・水性塗料の効率的な塗装作業に近いものを想像される場合が多い。しかし実際は簡素なヘラ・刷毛の用具だけを使用し、漆・砥之粉・地之粉を少しずつ混和調整した幾種類もの材料を30〜40工程に渡って加工し続ける手作業の積み重ねである。そのところを、まず多くの方々に「漆」という言葉と

共に知って戴くことが、漆に携わる者の大きく願うところである。伝統的であり比較的簡素な材料と用具を用いて、大きく歴史的な建造物の美しさと荘厳さを再現する、その過程を一部でも、世の方々に広く感じていただければと考える。その為として、材料・用具・工程・仕上がり・施工実績をできるだけ簡便に解説できればと試みた。



絵馬の彩色ワークショップ



- 日時 平成20年11月1日(土)
- 講師 有限会社川面美術研究所より派遣。
- 概要 『彩色絵馬』の製作体験

『彩色絵馬の製作』は五角形絵馬型絵板に手本を基に絵を描いてオリジナル絵馬を作る内容である。現在一般で入手できる水彩絵具は極めて鮮やか

な色が多く、また色数も非常に多い。しかし、日本画絵具の場合は伝統的色見とそれに見合った色数となる。

その限られた色見と色数であてやかに、しかし派手ではない色合いにまとめ上げられた絵画が日本の伝統絵画には多い。今回の手本絵には、あかべこ、几帳と着物、植物花、など彩りが多いものを選び揃えた。

製作作業はまず型紙を木地に当て墨を専用の短毛硬毛刷毛で挿りこみ形状を写す。形状に合わせて白色の胡粉を下地として塗り込み、その上に順次色を重ねて仕上げていく。部分により濃淡を付けたら、薄く隈取りをしてのばす技法なども



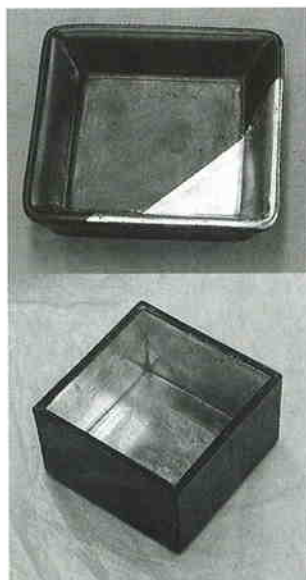
含まれている。基本的には絵具の混色はおこなわず、塗り重ねる場合も一定の基準がある。その技法になるのは絵具本来の発色の美しさを表現することを目的としていることも大きな要因の一つである。参加者は最初型紙を使う作業から非常に熱心に取組まれる方々が多く見られた。下地に白色の胡粉を塗る作業では、木地表面を滑らかにして上に塗る絵具がより鮮やかに発色するための下地である」という説明に、工程すべてが考えられ積上げられた作業であることに、伝統の製作の一端に触れられたのではないか。

金箔押しワークショップ

- 日時 平成20年11月1日(土)
- 講師 株式会社さわの道玄より派遣。
- 概要 陶器、漆器に金箔押しを施してお持ち帰りいただく。



- ◇金箔押し
 - 陶器（皿、箸置き、猪口、湯呑み）、塗り食器（椀、椀小皿）に金箔を貼る。
 - 金箔は一号金箔を使用して器の一部（内側、外



側）に貼る。漆性質に近い箔押樹脂液を金箔の接着剤として使用する。（かぶれ等の漆による人体への影響を考慮した。）

◇体験 金箔を貼ることを、「金箔を押し」と称されている。実際、金箔は極めて薄い膜の品物ではあるが、布・紙を張る感覚とは全く異なる。

極めて薄いとはいえ、やはり金属としての重量感を感じさせるものである。その作業は貼るといっても、置いて押し込んで器に密着させることを必要とする。金箔押しは漆工芸の一部として、多くの装飾技法で表されている。工芸的装飾として彩色、漆塗り作業に接する機会はないが、貴金属としての金を用いた工芸技法に接することは、更に少ない機会だと思われる。ほとんどの方々が金箔押しをするのは初めての経験だったようだ。慣れない作業に苦勞しながらも、器の表面が綺麗な金に変化していく過程を体験し、日常では見られない「感動」を持たれたことと思う。

文化財を支える 文化財保存技術2008

～ 伝統の名匠展 ～



文化庁主催で23の選定保存技術保持団体が文化財を守る伝統の技について、展示や実演でわかりやすく紹介されました。海内、斬新的な建造物の会場に各団体がブースを設け、パネル説明を主体に実物の展示や趣向を凝らした体験・実演が披露された。地元高松の多くの方々で賑わいました。

当協会は各会員の協力で金工・彩色・漆塗についてのパネル・製作見本の展示と見学者向けの金箔押し体験コーナーを設けました。金工・彩色・漆塗に関しては関連する展示を行っている団体もいくつかあり、また建造物保存技術でおなじみの展示・実演をされています。



1スも見られました。見学に来られた方々は普段、選定保存技術を見る・触れる機会がそう多くないと思います。言葉では聞いたことのある漆、表具、歌舞伎道具、浮世絵木版画彫り、などの手業の一端を具体的に見られる良い機会であったと思います。一日だけの開催でしたが参加者にとっても文化財保存技術の現状を垣間見ることができ、有意義な展示会になりました。

●日 時 平成20年10月26日(日)
●開催場所 香川県高松市高松シンボルタワー
●内容 文化財保存技術についての展示・実演・体験

でおこなっておりました研修会では、「彩色調査研修会」ということで、一体どのような文様が描かれ、どのような絵具が使われているのか、そういうことの調査技術を向上させていたいただいおった次第です。

本当に肉眼ではなかなか目に見えないような痕跡を、一生懸命たどるわけですね。このように調査というものが綿密になされませんと、正しい復元というものはできないわけですので、そういう技術者をたくさん養成していかないと、今後彩色の復元というのは難しい壁に当たるのではないかと考えております。また「丹塗り研修会」というものも行ってまいります。丹塗りというのは神社等に真っ赤に塗装されているものです。文化財指定以外の神社を探しまして、そこを実際に塗らせていただくというような研修会でございますけれど、丹塗は、鉛丹と申しまして、鉛を原料にしてあの赤い色が出てくるわけですね。ですから、ケレンをいたし

ます場合でも、防毒マスクをいたしますので、防毒マスクのかけ方からケレンの仕方から実地に塗装するまでを研修するわけです。

それと同時に、建築彩色、丹塗りに等しい(にかわ)というものを扱うわけですね。皆さんもご存知だと思います。膠は牛や鹿やウサギやそういう動物の膠質を抽出するわけなんですけれど、現在日本で膠を製造していらつしやるところがホンのわずかならなくなってしまっていて、今後は実際に施工する者がですね、膠を作つていかなないと、これはちょっといかにぞという難しい状況に追い込まれておりました。鹿や牛の皮を取り寄せまして、毛をむしりましてそれをグツグツグツグツ煮るわけですね。そういうことを今後やっていかなんといかないなと思っております。

それと現在作られております膠は、漂白剤とかいろいろなもの添加されておりました。接着力がないわけですね。例えば、私ども京都にも高松の伝統文化があつた牛車がございますが、そこに齋王大(さいおうだい)が乗られまして、それを牛が引くわけですね。現在、葵まつりのために、牛を二頭飼つておられるそうです。それ以外は別に牛は運動も何もしてないわけですね。ですからね、御所を出るまでもにも交代ですわ。それぐらい運動不足ですからね、膠質も大変落ちています。

昔の牛はですね、農作業から荷車の運搬からという運動しておつたわけなんです。ですから、膠も非常にいいものが取れたわけですね。私どもの協議会では非常に大きな問題になっておりまして、今後膠を自分たちの手で作っていくような方向でやっていこうという話になるわけですね。実際、まだまだ試作段階でございますので、それが本当に文化財に使用されるまではもう少し時間がかかるかと思っております。

文化財を支える 伝統の名匠展

事例報告講演 「建造物装飾」

社寺建造物美術協議会会長 澤野道玄

社寺建造物美術協議会の澤野道玄でございます。よろしくお願いたします。ただ今ご紹介いただきましたように、昨年度、当美術協議会を選定保存技術保持団体に認定していただきまして、早速ですね、昨年度から研修事業をおこなっておりますわけでございます。実は、昨日まで京都市の研修センターで研修会をおこなっております。認定いただくまではなかなかこういう研修会を実施するということは経済的に難しいことではございましたので、なんとかこういう研修会を実施できるようにいたしました。ただわずかの研修会でございますけれども、報告をさせていただきます。私どもは文化財建造物装飾ということで、認定を受

けております。漆塗り、それから建築彩色、それから金物ですね。かなりいろいろなジャンルが複合しております。大変なわけでございますけれども、例えば漆の研修会ですね。「漆下地材研究会」という研修会を開きまして、漆塗りの表面的な問題ではなしに、下地というものについて皆に集まっていたらいい研修会をいたしました。

漆の下地といいますが、皆様も少しはご存知かと思いますが、砥の粉とか、地の粉と漆を混ぜて下地を施すわけですが、これはだいたい江戸末期か明治の初めぐらいからそのような下地が施されているということでございます。それ以前の下地をもっと研究し、文化財の漆塗りに使っていかなきゃいけないという反省の下に、そういう研修会を開いておるところでございます。それが「漆下地材研究会」と申します研修会でございます。それから漆塗りにおきまして、前年度「日本産漆の塗りの研修会」というようなことを実施させていただきました。皆さんも十分ご存知だと思いますが、漆もですね、原油と一緒にございまして、ほとんどが輸入の漆でございます。ですから、国産漆を使いなれた職人さんというのがですね、現実日本にはわずかしかいらつしやらない。ほとんどが輸入に慣れた漆の技術者の皆さんなんです。そういうことで「国産漆を使う研修会」を開き、国産漆に慣れるというんですかね、そういう研修会を昨年度させていただきます。次は建築彩色としまして、私どもの場合、建造物に極彩色を施したり、絵画を施されておるものを修復いたしました。復原いたしますわけですが、昨日ま

平成21年度 建造物装飾技術研修事業予定

- 1. 建造物装飾技術国内・海外研修** (対象：初任者・中級技術者)
 - ◇研修人員 2名 (国内研修：1名 海外研修：1名)
 - ◇研修期間 国内研修：平成21年7月1日～平成21年11月30日 海外研修：上記期間中で研修生が選択。
 - ◇研修地域 国内研修：日本国内の各地域。 海外研修：研修生の選択テーマ地域。
 - ◇研修内容
 - 【国内研修】当協議会に登録している技術者研修生が、建造物装飾の中から今後練習し伝承したい研究テーマを選定し、毎月国内各地に赴き調査、研究、手板見本・サンプルなどの製作を実施し、その行動と成果を報告書にまとめて提出する。
 - 【海外研修】建造物装飾についての研究テーマを海外にまで広げ、現地において調査・研究を行い、その成果を報告書にまとめて提出する。海外研修では、海外の文化財建造物や修復現場、各研究機関等を中心に、テーマに応じて材料店や生産地なども訪問する。
- 2. 会員研修会** (対象：会員)
 - ◇研修人員 12名 ◇研修期間 平成21年10月16日～10月17日 ◇研修内容 講義・見学11時間
 - 大分県の宇佐八幡宮や国東の文化財建造物を視察する。
- 3. 後継者養成実技研修会**
 - ◇研修人員 10名 ◇研修期間 平成21年8月・9月・平成22年2月(この間の10日間)で実施 ◇研修内容 実習70時間
 - 昨年度と同様に、近畿・関東地域の各種美術工芸教育機関にも窓口を広げて研修生を募集する。文化財建造物装飾に関心のある後継者を会員各事業所に受け入れ仕事の実験を体験してもらうことで、人材の確保に繋げる。
- 4. 固有技術向上研修会**
 - 丹塗技術研修会 (対象：初任・中級技術者研修)
 - ◇研修人員 5名 ◇研修期間 平成21年6月1日～6月6日 ◇研修内容 実習40時間
 - 前年度、京都市の武信稲荷神社でおこなった研修では瑞垣の塗装をおこなった。今年度も同神社でケレンから上塗りまで一貫して、丹塗技術の実際を実物を用いて実技研修する。
 - 彩色調査検討会 (対象：主任技術者研修)
 - ◇研修人員 7名 ◇研修期間 平成22年2月9日～2月13日 ◇研修内容 実習40時間
 - 建造物に残存している彩色塗膜の文様や絵画の目視調査、赤外線調査及び光学調査等を行い、建造物彩色の調査方法の実際を研修する。現状の模写・白描図による記録、類別調査なども行う。
 - 建造物装飾総合技術研修～漆研修 (対象：初任者)
 - ◇研修人員 10名 ◇研修期間 平成21年6月～11月
 - ◇研修内容
 - 漆・金工・彩色等の複合した建造物装飾技術の展示品の模型作りをおこなう。初年度は漆・彩色研修として実物大のお社の模型を用いて、それぞれの各会員事務所で作業を分担して建造物装飾の実技研修を実施する。